

科学は好きですか

森山和道

久しぶりの万博がやってきた。大人はいろんなことを言っているが、子どもには見せたほうがいいと思う。子どもものころに見たものは強く印象に残る。

万博というと高度経済成長のピーク

に実施された1970年の大阪万博が紹介されることが多い。だが、ちょうど博士課程を終えた若い世代の人たちにとっては、「万博」と言えば科学万博と呼ばれた「つくば博」だろう。

『つくば科学万博クロニクル』は、素朴に科学が大好きだった科学少年時代を思い出させてくれる一冊だ。パビリオンやグッズのいろいろは懐かしい。当時、裏方だった人たちに取材をした記事は、大人になった今だからこそ、興味深く読める。

彼らは昔、子どもだった僕らに未来を見せてくれた。僕らはどんな未来を今の子どもたちに見せてあげられるだろうか。

これからどのようにキャリアを積んでいけばいいのか、早速悩んでいる人もいるかもしれない。だが『**科学者になる方法**』を読むと、人生いろいろ、研究者もいろいろだと実感するのはないか。科学技術振興機構（JST）が34人の研究者にインタビュー取材してまとめたものだ。タイトルどおり、研究内容よりも「どうやって研究者になったか」に重点が置かれている。

編集はきれいとは言い難い。当然のことながら成功した人の話ばかりであり、この陰には失敗して消えていった人もいるだろう。人は、なりたいのものになんでもなれるわけではない。そんなことも若干気にはなるのだが、科学少年がどんなふうになんか大人になっていったかがわかる。彼らから若手への注文

の言葉には耳が痛いかもしれない。

研究者が実際に研究を進めるにあたって、どんなことを考え、どんなことに喜びや興奮を感じているのか。もっと細かく知りたい人にはたとえば『**道具を使うサル**』をおすすめする。横書きで一見非常に硬い教科書のように見える。だが、著者自身が「研究日誌」と呼んでいるように、著者の思考の道筋に乗って、道具使用とボディイメージ、それを実現する脳機能の謎に迫る研究の様子を知ることができる本だ。道具使用から演繹的にシンボル操作や知能の謎にまで思いを馳せている。エキサイティングな読書体験のできる一冊である。

論文では実際の研究動機や研究者の受けた衝撃のほどはわからないことが多い。そして研究者自身もどんどん忘れていく。人間の記憶は曖昧なのだ。

これから研究職に就く人にはできればこういう本を書ける研究者になってもraitたいし、現役の人には覚えている間に書いてもらいたいと思う。一般人にとっても、将来の自分あてに日記を書くことはマイナスにはならないと思う。

ボディイメージの話や認知科学的な知見は、プロダクトデザインやインターフェースデザインとも関連が深い。『**エモーショナル・デザイン**』は『誰のためのデザイン?』（新曜社）を書いたドナルド・ノーマンの新著だ。プロダクトデザインは3つの側面を持つという。外見などから来る「本能レベル」、使うときの効率に関する「行動レベル」、製品自体の持つ物語性を問う「内省レベル」だ。良いプロダクトデザイン、良いインターフェースとは何か、テクノロジーやロボットの未来について考



『科学者になる方法』
科学技術振興機構
プレスルーム 編
A5判 206ページ
1575円（税込）
東京書籍



『エモーショナル・デザイン』
ドナルド・ノーマン 著
岡本明/安村通晃/伊賀聡一郎/上野晶子 訳
四六判 360ページ
3045円（税込）
新曜社



『つくば科学万博クロニクル』
A5判 157ページ
1260円（税込）
洋泉社



『道具を使うサル』
入來篤史 著
A5判 236ページ
3150円（税込）
医学書院



『視覚ミステリーえほん』
ウォルター・ウィック 作
林田康一 訳
A4判 39ページ
1890円（税込）
あすなろ書房

察している。情動と認知は切り離せないし、人間の行動や動機づけ、パーソナリティとも深い関係があるという。このへんは最近の脳科学のベクトルとも近いものがあるように思う。

ノーマンは巻末で「我々は皆デザイナーだ」と語っている。誰と会い、何をするか。どんな世界を構築し、どん

な社会とかかわっていくか。生きるという行為そのものがデザインだ。ならば、美しいものを選んで生きることができれば、満足のいく人生や社会を作っていけるのかもしれない。部屋のなかに美しいものを置くように。

最後に一冊、絵本をあげたい。錯覚をテーマにした『**視覚ミステリーえほん**

ん』は1ページ目どころか表紙から人間の目を騙す錯覚の数々を、本を上下にひっくりかえしたりしながら楽しむことができる本だ。

子どものころに抱いた素朴な疑問。その気持ちをとときどき思い出すことは大事だと思う。

(もりやま・かずみち:サイエンス・ライター)